

エンサイス スナップショットデータ

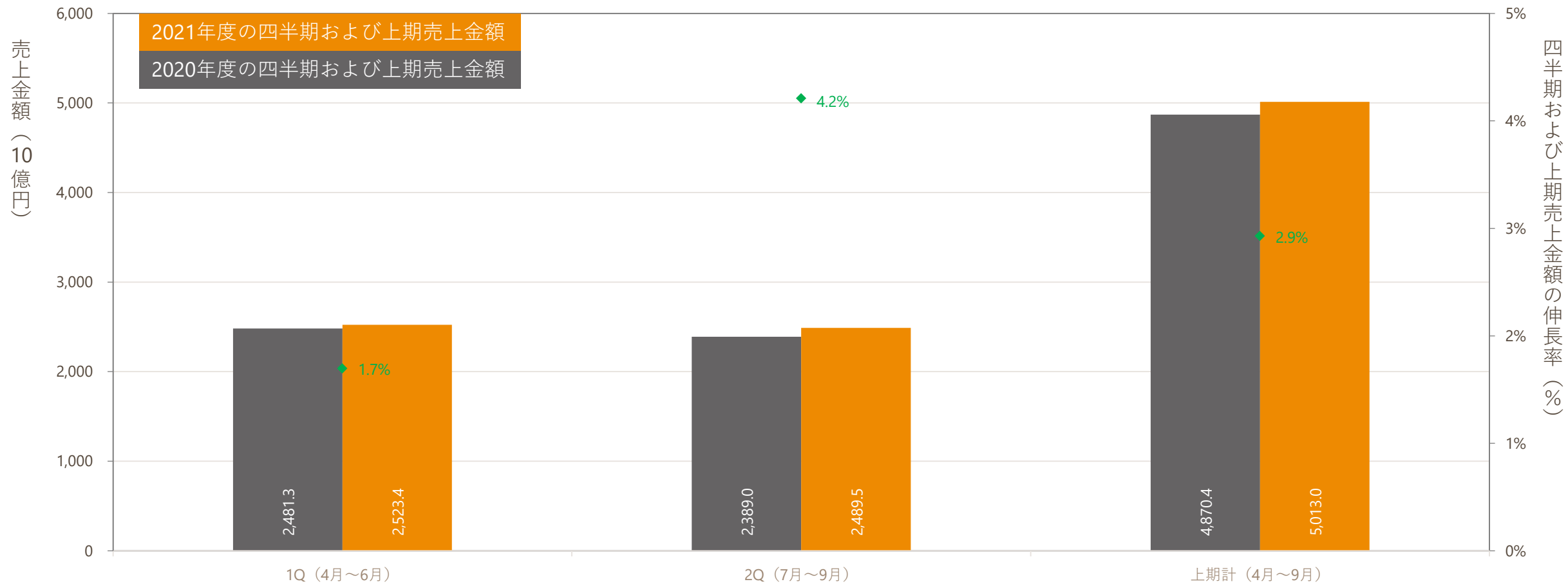
(薬価基準ベース)

2021年度上期 (2021年4月～2021年9月)

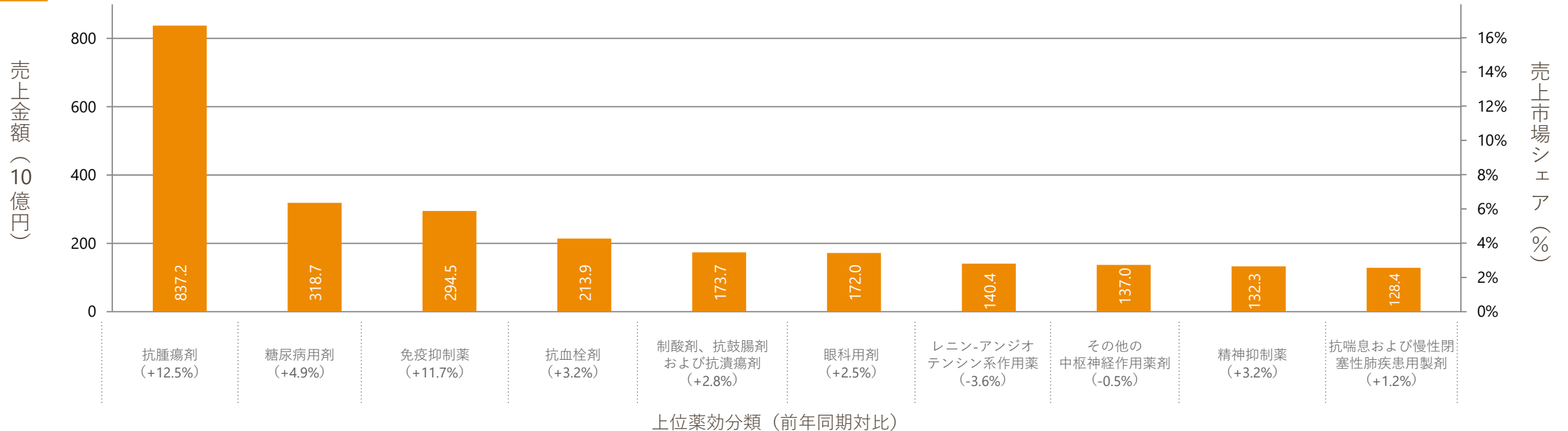
本レポートは、エンサイスが収集した医療用医薬品に関する情報を基礎としてエンサイスリサーチセンターで加工、編集又は推計を行ったものであり、エンサイスは本情報の正確性、網羅性、その他本レポートが一定の内容や品質を備えることを保証するものではありません。

過去との比較（前年同四半期および前年上期比）

データ期間：2021年4月～2021年9月



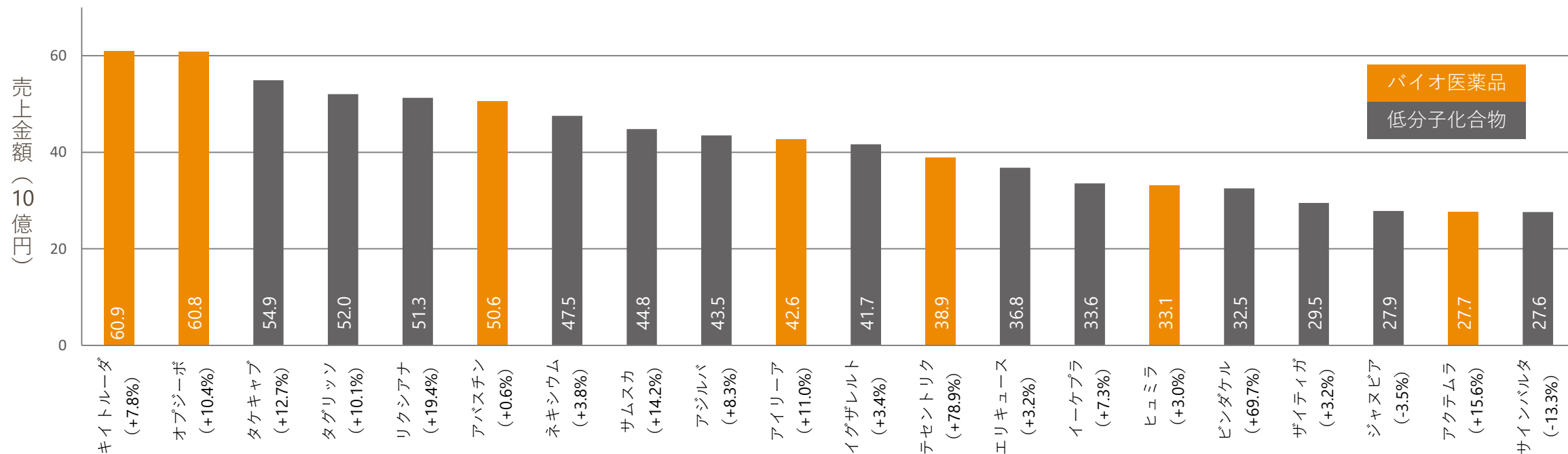
医療用医薬品売上上位10薬効分類*1 データ期間：2021年4月～2021年9月



*1 2021年10月1日時点の薬効分類に基づき実績を集計

- 上位10薬効分類の売上高は前同比6.0%増の2兆5,482億円、医療用医薬品総売上上の50.8%を占めた。医療用医薬品市場は、前年同期にみられた新型コロナウイルス感染症パンデミックによるマイナス影響から回復し、上位10薬効分類のうち8薬効分類が前同比でプラス成長であった。プラス成長がみられた薬効分類の中で、抗腫瘍剤および免疫抑制薬は、それぞれ前同比12.5%増および11.7%増と二桁成長であった。一方、レニン-アンジオテンシン系作用薬およびその他の中枢神経作用薬剤は、それぞれ前同比3.6%減および0.5%減と引き続きマイナス成長であった。
- **抗腫瘍剤**：キイトルーダ（売上高609億円、前同比7.8%増）、オプジーボ（608億円、10.4%増）、タグリッソ（520億円、10.1%増）、およびアバスチン（506億円、0.6%増）はプラス成長を維持し、依然として売上上位を占めている。全体の成長に最も貢献した薬剤はテセントリクであり、売上高は前同比78.9%増の389億円であった。
- **免疫抑制薬**：全体の成長に貢献した主要薬剤には、デュピクセント（売上高225億円、前同比71.6%増）、ステラーラ（259億円、56.1%増）、およびオルミエント（118億円、64.3%増）が挙げられる。ヒュミラは売上高を前同比3.0%増の331億円とし、首位を維持している。

医療用医薬品市場上期売上 上位20製品*2 データ期間：2021年4月～2021年9月

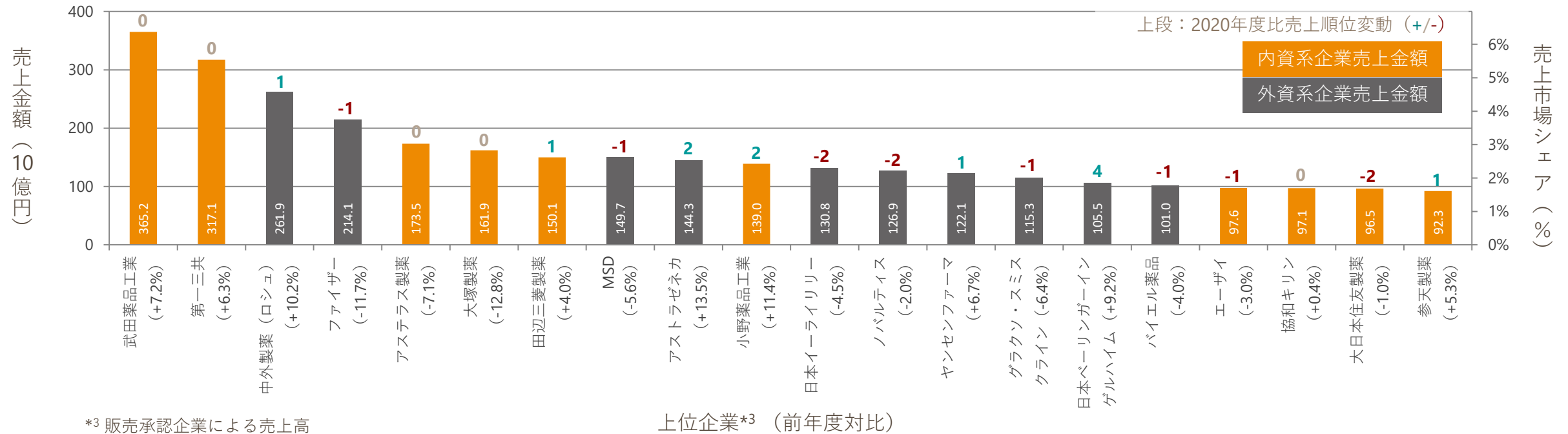


上位製品*2 (前年同期対比)

*2 同ブランドによる合計売上金額

- 2021年度上期上位20製品の総売上高は8,382億円、医療用医薬品総市場の16.7%を占めた。
- 2021年度上期に上位20製品入りした製品**：テセントリク（第12位）、ビンダケル（第16位）、およびアクテムラ（第19位）
- 2021年度上期に上位20製品から外れた製品**：レミケード（売上高265億円、前同比12.3%減）、エディロール*2（170億円、49.0%減）、およびリリカ（114億円、76.4%減）。

医療用医薬品売上上位20企業*3 2021年4月～2021年9月



- 2021年度上期上位20社の総売上高は、前同比0.8%増の3兆1,617億円、医療用医薬品総売上高の63.1%（1.34ポイント減）を占めた。
- 上位20社のうち、内資系企業対外資系企業の売上高比率は約53：47であった（前年同期と同じ）。上位20社のうち、内資系企業の総売上高は1兆6,903億円（前同比1.5%増）、外資系企業の総売上高は1兆4,715億円（0.0%増）であった。
- 上位20社のうち、**武田薬品工業**および**第一三共**は上位2社の順位を維持した。上位20社のうち7社が順位を上げた—**日本ベーリンガーインゲルハイム**（4ランク上昇、前同比9.2%増、特発性肺線維症（IPF）治療に用いられるオフエブ（売上高264億円、前同比36.0%増）およびSGLT2阻害薬のジャディアンス（173億円、26.3%増）が主に成長を牽引）、**アストラゼネカ**および**小野薬品工業**（それぞれ2ランク上昇）、**中外製薬（ロシュ）**、**田辺三菱製薬**、**ヤンセンファーマ**、および**参天製薬**（それぞれ1ランク上昇）。
- 前年同期と比較して8社が順位を下げた—**日本イーライリリー**、**ノバルティス**、および**大日本住友製薬**（それぞれ2ランク低下）、**ファイザー**、**MSD**、**グラクソ・スミスクライン**、**バイエル薬品**、および**エーザイ**（それぞれ1ランク低下）。
- 参天製薬**は上位20社に復活し、**日医工**（前同比31.5%減）は上位20社から外れた。